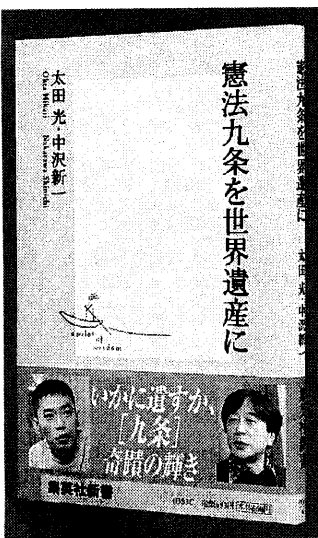


# ベストセラーの裏側

お笑いコンビ「爆笑問題」の太田光氏と宗教学者の中沢新一氏という異色の二人の対談、しかもテーマは「憲法」。こうした意外性のある組み合わせに「面白そうだ」と関心を持った人が多いだろう。対談をまとめた『憲法九条を世界遺産に』（集英社新書・六百六十円）が好調な売れ行きを

## 太田光・中沢新一著「憲法九条を世界遺産に」

太田 憲法九条は、たった一つ日本に残された夢であり理想であり、抛り所なんですよね。どんなに非難されようと、一貫して他国と戦わない。二度と戦争を起さないという姿勢を貫き通してきたことに、日本人の誇りはあると思うんです。（略）中沢 僕もそう思います。日本国憲法というのは、日本人のドリームタイムなのです。



示している。八月中旬の刊行以来、発行部数は二十一万部（六刷）に達している。太田氏と中沢氏は普段

本が生まれるきっかけとなった。憲法について語りたいたいというのは、二人からの申し出だった。タイトル「憲法九条を世界遺産に」という考え方は、もともと太田氏の持論。日本国憲法は日米共作によって奇跡的に生まれたものであり、それゆえ世界遺産のように大切に扱うべきであるとの考えだ。太田氏はテレビに出演しているときとは全く異なる、まじめな口調で訴えているのが伝わってくる。

## 異色の対談、意外なテーマ

部数が十万部を超えた時期から女性が増え、今では逆転している。「改憲を進めようとする動きに警戒感を持つ人々が、この本を購入しているのではないか。読者カードを見ると太田さんへのメールが多い」と鈴木氏。

収録されている対談の一部は、事前に文芸誌「すばる」で掲載した。本書の刊行に合わせて、販売部が誌面のコピーを書店に配布したことも、好調な売り上げを後押しした。発売から三日後という短期間で重版が決定した。ベストセラーとなった背景には、社内の連携もあるようだ。